

厚高同窓会報

第 40 号 平成18年 8月12日

旧制中学卒業者 3,915名 計 27,062名
 新制高校卒業者 23,147名
 発行
 神奈川県立厚木高等学校同窓会事務局
 TEL 046 (221) 4078
 FAX 046 (222) 8243
 印刷所
 厚木市妻田南2-4-32 (有)厚木タイプ印刷
 TEL 046 (222) 3027



4月の同窓林の下草刈り作業にも多数が参加

みんなで

つくろう同窓会

厚木高等学校同窓会々長

小澤 澄 男

(高三回)



新体制が発足してから、もう一年がたつてしまいました。とてもあわただしい一年でした。

まず役員(理事)選出や事務局人選に取り組みましたが、一カ月後の名簿発行に、なんとか間に合わせることができました。それが終わるとすぐに、会則と組織について検討する委員会を立ち上げ、早速審議に入っていました。

その間に九カ所の地区戸陵会総会に出席、鶴沼海岸の地引き網や愛川町の同窓林下草刈りにも参加させていただきました。卒業式や歓送迎会では、直接先生方とお話しも致し、生徒の皆さんとも触れ合うことができました。

こうした同窓会の活動につきましては、経験も浅く多少の戸惑いもありましたが、何より「よかったな」と感じたのは各世代の同窓生と広く、いろいろな話ができることです。

この結果、私なりに理解できたのは、質実剛健の校風を享受しつつ同じ学窓に学んだ同窓生でも、それぞれの時代背景の中で培われた価値観に、多少の違いが見られることです。

時代の流れはますますスピードアップし、若い層と女性の同窓生がさらに増えて行きますのでジェネレーションギャップが生じないようにすることが肝要です。

「同じ価値観を共有するにはどうしたらよいか」世代を超えて、まずこの辺の議論から始めたいものです。そして「みんなが参加し、みんなで作る同窓会」を目指したいと思います。

戸室の印象

校長 堀 英雄



本年四月、県立大和高校から異動してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

新たな勤務地に着任した時、私はまず、敷地内、校舎内を見て回ることにしています。例年に比べ遅れていたようですが、戸室の丘の四月の桜は見事でした。正門の大銀杏と楨やヒマラヤ杉、西には巨木となった檜や椎、点在するカイツカイブキなど、学園らしい雰囲気醸し出していました。敷地全体は高低差が少なく、グラウンドは見た感覚より広さがあります。校舎はよく言えば風格有りですが、老朽化は否めません。何回か見て回る中で、少しずつ手を入れながら丁寧に使っていくことも使命と思うようになりました。

この地に、明治時代から百年余り、十代半ばの少年少女が入れ替わり立ち代わり学んだことを思うと感慨ひとしおです。伝統とは平凡な日常の永年の積み重ねによって作られるといいますが、「尼の泣き坂」を通った二万数千人の同窓生が厚木高校の伝統を作り継承してきたことに敬服します。

厚木高校について、最初に印象に残った言葉は「三けん」です。この「剛健、真剣、勤儉」こそ、日本の美徳であり、現代にも通じ

る必要な資質であると思います。「三けん」は校章に三本の剣として表されています。仔細に見ると、校章には多くのバリエーションがあります。例えば、「高」の「ナペクタ」は水平、屋根型、丸み付き、字の下部はカギ型、直線、字と重なる剣の一部が点であるもの、棒状のもの、入り込んでいないもの、剣の意匠が線状ではなく、幅広くであるものなど、いつかは収集してみたいものと思っています。

これだけ微妙に異なる校章を持つ高校は寡聞にして知らず、その差異に拘泥していないことにも感心しました。

過日、幾つかの地区の同窓会にお招きいただき母校の校長として紹介され、恐縮するとともに、伝統を引き継ぐ責任の重さを痛感しました。また、それぞれの地で今も変わらず母校への厚い思いと期待をひしひしと感じました。ご高齢で、高校時代の三年間の何倍も時間を過ごされてきた方が多くご出席でした。自分自身を顧みて、現在の五十年代までのどの時代の三年間を切り取っても、多感な高校時代三年間の時間の重みに勝る時期は無かったと思います。今は十代の若者も、いずれは厚木高校を卒業します。若くて他の刺激の多

い時期には母校を忘れるかもしれない。しかし、意識の底に眠る高校時代の師との繋がり、友との交わりの記憶をいつかは思い出し、一生の宝であることに気付くと思います。

日本人の誇り得る情緒として「懐かしさ」があると「国家の品

相州健児の端くれ

只今、着任いたしました

教頭 難波 淳一(高十八回)



格」という書の中に書かれています。「同窓」とは「懐かしさ」の一つであると思います。生徒一人ひとりが、伝統の中から「厚高の品格」を求め、顧みて恥じない良い思い出を持って卒業できるように校長としてできることを為したいと思っています。

教員として母校に赴任できることは、大変名誉なことかもしれない。特に私のように教員生活の集大成の場として、母校を許されたことは幸運の極みと言わなくてはならない。しかし、一度志を持って巣立った者が訪問者としてでなく、生活の場として舞い戻ることには幸福感と共に忌避的感情が湧くこともあるのです。過去の自分と対峙し、

その後の生き様を検証することを余儀なくされることに戸惑ったためか、他校の比ではない重責を感じたためか。

ともあれ、不思議な心持ちのまま、四月一日尼の泣き坂を登りました。セピア色ではない懐かしい正門に手を触れながら、「帰ってきたぞ」とつぶやき、新年度の職務に着任いたしました。

私は高校十八回生であり、小林房次郎校長の下、木造校舎での高校生活を送りました。そして、私

達十八回生が木造校舎最後の卒業生となったのです。風格あつた講堂での卒業式には、茅誠司大先輩も列席されていました。また皆勤賞としていただいたアルバムの内表紙には、小林校長直筆の「強く、正しく、朗らかに」の文字があります。※小林先生は、本年二月にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

年間を過ごす幸運に恵まれた。教室の窓からは、遠く厚木市街が望め、近くは尼の泣坂、正門、玄関へつづく前庭が見渡せ、木犀など季節ごとの花の香りまでが風と共に流れ込む最高の環境であった。隔年開催だった文化祭・体育祭のこと、ゴルフ場内を走り抜けたマラソン大会のこと、学校から歩き始めた大山登山等の学年遠足のこと、夜行寝台車で出発した九州一周の修学旅行のこと、三年間無我夢中で活動した吹奏楽部、創部に加わった書道部のこと、厳しかった数学の授業、氏名・得点まで書き込まれた実力テストの掲示発表のこと、前年まで「ふんどし」着用の崖下プールのこと、辛かった中庭での応援団のこと、三十数名に急増し、制服制定に動いた女生徒達のこと、木造体育館つり輪上の大貫睦男選手のこと、三年間担任だった清水昭先生のこと、忘れかけていた記憶が一挙に甦り、胸の熱くなる思いです。

さて、舞い戻った私の目に映った現在の厚木高校ですが、歳月の流れの中で、易きに流れた伝統的慣例というゆるま湯があちこちに顔を出している気になります。進行中の高校改革は、制度組織面、教育内容面の改革は当然で、内部の意識改革こそ最大の課題と思われまふ。三剣の意図するところ、質実剛健の意図するところ、教頭として赴任した私に託された課題が見えてきた気がしています。

会則や組織等を検討 女性役員を初めて選出



毎回熱心な議論を重ねる本部役員会

本部活動報告

昨年の総会でスタートした同窓会本部の新執行部が、まず目指したのは①学校との密接な連携②同窓会組織と会則の検討、の二つであった。

まず学校との連携については、

同窓会活動の要となる事務局に学校と同窓会が「相互乗り入れ」し、より密着度が高まるように考えた。つまり、事務局長は同窓会側から出して両者の「つなぎ役」となってもらい、事務局次長を新設して、学校と同窓会から選出、お金を扱

う会計も同様に選んで、忙しさを分け合ってもらうことにした。

「組織」については、二万七千人の同窓会の中身が、女性と若い層が増えている現状を考え、これからの人達の声が少しでも反映するように、と女性と若手代表の役員(理事)各一名を選出した。

また同窓会活動を支えている支部の位置づけを確たるものにし、本部→支部の血の通った連携プレーこそ肝要、と考えた。

そこで、こうした組織を見通してもらおう検討委員会と、その活動と表裏一体となる会則の検討委員会の二つを、昨年十一月に立ち上げた。

委員の皆さんには、精力的に議論を重ねられ、組織や、将来を見通した財政の裏付け等を網羅した会則(案)を完成していただいた。

特に新しく会費制を導入したことは、同窓会が自主自立の活動を末永く続けて行く上で不可欠なことであり、役員会でも賛成の議決をしている。

さらに、歴史の古い県立高が一堂に会して「青春かながわ校歌祭」(10月21日、県立青少年センターホール)を開催することになり、わが同窓会も参加する。会合も多く準備もたいへんだが、他の同窓会と接することで学ぶことも多い。同窓林の下草刈り作業や鶴沼海岸での地引網も皆さんが積極的に参加してくれており、感謝申し上げます。

母校に20万円を寄付

同期会 高28期卒の同窓生 を開催

去る七月八日(土)に高28期の同窓会が盛大に開催されました。

当日は、小林正義先生、小泉忠久先生、農田秀夫先生、石井初男先生、大橋有海先生の各恩師と、百十八名の同期の仲間が集合し、遠くはイタリアからこの日のために帰国した同期生もあり、三十年ぶりの再会に会場は終始にぎやか

な雰囲気になりました。

正面ステージには、一年生当時「尾瀬ヶ原キャンプ」で撮影した全員集合の題パネルが展示され、十六歳の自分と久々の対面を果たし、厚高時代を更に懐かしく思い出す面々が多くありました。

終宴間際、応援団OBの阿部君のエイルによる「校歌斉唱」では、老眼で歌詞カードを少々遠ざけながら歌う者、昔のように右手を高く、肩を組みながら歌う者と、すっかり「厚高生」に戻り、時間の経つもの忘れるほど楽しい時間となりました。

なお、参加費の中から二十万円を母校の施設整備のために、寄付の申し出を行ない、小澤同窓会長に贈呈させていただきました。



【同窓会本部より】

皆様の心温まるご寄付、確かに受領させていただきました。他の寄付金等と共に「母校教育振興基金」(仮称)としてプールし、母校と相談し有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

(小澤)



恩師そろってのごあいさつ



同窓林の下草刈り。みんな汗びしょり



作業終わってホッとひと息



活発に論議した会則と組織の両検討委員会メンバー



とれたぞ、とれたぞ……

母校で、山で、海でもー
活動さわやか同窓会員



「懐い出の社」プレートを背に



各支部記念植樹の木の前で



とれた獲物をのぞき込む



みんなで網を引っ張って＝鵜沼海岸での地引網

厚木高校での

十二年間を振り返って

小山 隆 (高三十一回)

平成六年四月より本年三月までの十二年間厚木高校の教壇で後輩たちの指導に当たらせていただくとともに、同窓会事務局校内役員として様々な業務を担当させていただきました。同窓会報」担当時には、原稿の執筆等で諸先輩には大変お世話になりましたが、それよりも重かったものは「同窓会名簿」の編集であり、そして何より印象深いことは、母校の創立百周年に関わられた事だと思います。名簿に関しては、先輩方から何度か「発行はまだか」というお叱りを受けながらも何とか昨春秋に発行することができました。名簿編集を通して感じたことは、昨今マスコミ等でも話題になっておりますが、様々な会の活動と個人情報を取り扱いの難しさです。学校の緊急連絡網でさえ非常に気を使うこの頃ですが、ひとえに「振り返り」等様々な事に「名簿」を悪用する輩がいることが原因でしよう。実際私が名簿編集を担当している間にも、何者かが卒業生の名を語り名簿を手に入れようとするケースが年に数回ありました。本人確認の為に様々な質問をするとしどろもどろになり、笑い話になるような応答をしてきたりもしました。活動を支える側としては、

名簿は必要なものだと思いますが、不快なセルシスの電話などを受けると「名簿なんか要らない」と思ってしまうのも正直なところです。そのような状況の中で、次回「同窓会名簿」が発行できるか否か、或いはすべきか否かわかりませんが、皆様のお知恵をお借りできればと思います。月日が経つのは早いもので、創立百周年の諸行事を行ってから四年あまりになってしまいました。百周年イヤーとして動き回っている時は夢中でしたが、今振り返ってみれば様々なことをやったものだと感じています。もちろん私は種々の行事のお手伝いをしただけですが、そこで感じたことは卒業生の皆様のパワーと、同じ学び舎で学んだという一体感だったと思います。厚木高校の教員として厚木高校在職中三回、「後輩」でもある卒業生を送り出しましたが、生徒たちに「厚木高校の卒業生ということは、年をとってくると利いてくる。神奈川県、特に県央で暮らしていると特にそう思う。会社などでも何かの拍子で厚木の卒業生だとわかると、上司、同僚、取引先にかかわらず妙に親近感を覚える。時には「同窓」というだけで酒が飲める」という話をしま

した。もちろん正直煩わしさもありますが、同窓諸氏のお付き合いは、いろんな刺激を受け自らの糧にできると思います。本年四月より厚木東高校に勤務しておりますが、何かの縁か東高は本年創立百周年を迎えました。写真展等も予定されておりますの

厚木高校

熊坂和也 (高三十二回)

桜。厚木高校の正門を出て下る尼の泣き坂の桜は、卒業式や入学式の時期、そして新しい年度の始まり、それらを花の色にうつして美しい。

厚木高校で過ごした九年間、四月になると、この桜を見上げ、何かをおもい、考え、一年がゆっくりと始まり、また次の桜の季節がめぐってくる、その繰り返したたような気がする。

力、これが厚木高校を象徴する言葉であった。またこれからもそうあって欲しいと願っている。生徒諸君の刻苦勉勵する力、授業の中でくり広げられる探究の力、学校行事に注がれる力、いずれもが、厚木高校で過ごした者にとって、前へ進もうとする力であった。そしてその力は、厚木高校にいる人間同士の中から生れくるものであった。たたずまい。現在を厚木高校で過ごしている者にとっても、過去

で、お時間がありませんたらお越しいただいて昔を懐かしんでいただくとともに、厚木の百周年を思い出していただければと思います。末筆ながら十二年間のご指導ご協力を感謝申し上げます。厚木高校同窓会の益々のご発展をお祈りいたします。

を厚木高校で過ごした者にとって、厚木高校の今ある風景は、様々なおもいととともに、静かにそして懐かしい。それはあたかも、グラウンド越しに見とおす大山を背景にいつもそこにある風景のようである。四季折々めぐる中に、そのたたずまいは静かに根をおろして、訪れる者をむかえてくれる。躍動。時代の変化にあわせるかのように、厚木高校もその姿を変える。その変化もまた厚木高校の

名画を鑑賞して感じたこと

山崎 朗 (高三十二回)

先日、上野の東京都美術館で開催されている「ブラッド美術館展」を見学してきました。世界史の授業を担当することが多く、授業で利用できる教材などを探すため、できるだけ多くの美術展や特別展に出かけるようにしています。今

魅力であると同時に、進化した姿でなければならぬ。過去を内在しつつ新しい姿を写し出す。それが躍動。百年を越える歴史の中に厚木高校の刻んできたもの。それをおもい、自分が過ごした九年間、生徒として過ごした三年間を心の中に振り返ったときに、厚木高校の存在はとて大い。その存在の大きさが何によるものなのか、それをつきつめてみようなどとは思ってもよらない。ただ、厚木高校が風景として浮かび、また実際に目にし、校歌を歌い、聴くときに、心にこみあげてくるものを、素直に感じるだけである。桜の季節とともに、そして戸室の丘辺旭日さして、厚木高校はそこで過ごす者とともに、刻をきざんでゆく。そこに感ずる心が重なったときに、厚木高校はその者の心の中で輝きを放つ。

場したこともあり、ゆっくりと鑑賞することができました。

今回特に目を引いたのは、展覧会の目玉の一つにもなっていました。また、同窓会報の担当として、本部役員及び各支部の方々に毎年原稿依頼をしてきました。お忙しい中にもかかわらず皆様快くその依頼を引き受けてくださり大変感謝しております。

この作品のように、絵画では聖書や歴史的な出来事を題材にしたものが数多くあります。やはり、その作品の成立した時代や背景を知っていた方が、より深く理解できると思います。今後もこのような展示会で得た感動と素晴らしいものに触れる喜びを、授業の中で生徒たちにできるだけ伝えていきたいと考えています。

職し、校内役員として事業に関わったことは大変光栄なことだと思っています。また、同窓会報の担当として、本部役員及び各支部の方々に毎年原稿依頼をしてきました。お忙しい中にもかかわらず皆様快くその依頼を引き受けてくださり大変感謝しております。

支部会便り

五月十三日(土)

伝統の「質実剛健」「温故知新」のもと 第五十六回伊勢原戸陵会総会が開催され、 新役員を選出。

平成十八年五月十三日(土)第五十六回総会が約七十名の参加の下開催されました。ご来賓に本部同窓会小沢澄男会長、厚木高校堀英雄校長、同山田和彦教頭、秦野戸陵会佐野哲太郎、大野訓男副会長、厚木連合戸陵会石川範義会長、座間戸陵会山本まさる幹事長そして山口健二伊勢原高校々長(高十七回卒)をお迎えし和気合々の新旧交を温め盛會裏に終了しました。

の場をお借りしてお礼を述べさせていただきます。今年も昨年に続いて各部が好成績を残しているようですが、学習面や部活動面で活躍する厚木高校生を、今後は一卒業生として精一杯応援していきたいと考えております。

伊勢原戸陵会

卒の横山進さんの講演がありました。また新入生十六名中八名が出席し記念品を贈り激励しました。そして今回の総会は役員改選の年に当り新役員が選出されました。

会長 大津博康(高10回)
副会長 花田克雄(高12回)
“ 高橋 力(高18回)
幹事長 廣木孝幸(高19回)
副幹事長 清水俊男(高20回)
“ 上野芳弘(高24回)
事務局長 小川 均(高22回)

幹事・顧問は留任をお願いし新たに近藤俊二前会長と遠山一徳前副会長が顧問に加わっていただきスタートいたしました。各支部と交流を深めて参りたいと思っております。

発足して二十一年。

充実発展に努力

座間戸陵会々長

瀬戸宏孝(高四回)

座間市戸陵会(旧称は両青会)は昭和六十一年二月二十二日に座間市居住者の方々を中心に旧制中学卒業生一六〇名でスタートしました。現在の役員構成は会長、副会長若干名、幹事長一名、幹事十数名。約一、〇〇〇名の会員に総会の案内状をだしており、総会は原則毎年十月の第四日曜日と予めきめ、会場も一定の場所にして、出席しやすいように配慮しております。総会では、予算等を審議するとともに、各界の一線で活躍しておられる厚高の卒業生を主に講師に招き講演会を行い、会員の研鑽に努めています。



座間戸陵会

同窓生等の花と緑を絆とし

地域の活性化を願っています

相模原両青会事務局

安藤和次郎(高九回)

平成元年小川勇夫氏(高1・現市長)が中心となり支部を設立、篠崎源太郎会長(中31)の下に、年一回の総会・懇親会、幹事会は随時開催し地域の交流を深めています。

総会には毎年六十名以上の出席者があり、毎回OBの講演を中心

懇親を深めております。今後とも一層の会の充実発展を期そうと役員一同張り切っている昨今です。

に交流をしています。特に平成五年の総会では岡部誠氏(高9)が県立試験場相模原分場で担当した一九八六年(昭和61年)照手シリーズを開発・登録した事例をスライドを交え講演しました。出席者は苗木を自宅で育て生長を楽しんでいます。

「照手姫の花桃」を絆として「まちおこし」を呼びかけ、地酒「てるて・をぐり」を売り出したり、



相模原両青会

地引網大会開催

去る五月四日に御所見戸陵会主催、厚木高校同窓会協賛の地引網大会が辻堂海岸にて開催されました。百周年記念事業での初回から六回目になります。小澤会長にも御出席頂き、愛川、厚木連合、相模原、伊勢原、座間等各戸陵会の方々、家族を含め約六十名が参加されました。南に江ノ島、西に富士を望み、天候は陽射は少ないも風はまあまあ、まずは地引網日和でした。午前十時に始まり、パーベキュー、てんぷら、冷やしトマトに舌を打ち歓談の内に、十一時に網引きが始まり総出で網を引き、十名程の子供達も一生懸命でした。

「オペラ照手姫」を高橋鉄雄氏（高7）が作曲公演し活性化を図っています。

かながわ校歌祭 参加者募集!!

本年10月21日(土)に横浜の県立青少年センターにて、かながわ校歌祭が開催されます。同窓生諸氏におかれましては奮ってご参加ください。当日は、明治・大正の時代に開校された学校22校が参加の予定です。詳しくは、近藤俊二副会長（伊勢原市在住）までお問い合わせいたします。

御所見戸陵会

残念ながら大漁にはならず親の片口鯛ばかりで本命のシラスがわずかでした(昨年は大漁)。その後、漁師さんによる鮪一本の解体実演さしみ、パーベキューを楽しみ、海の香を満喫しました。勿論一杯も。こうして海の日を過ごし、魚のおみやげと来年の大漁を期して終了しました。(佐藤記)

訃報

御所見戸陵会々々長内野樹美(高11)様 平成十八年五月ご逝去されました(65歳)心よりご冥福をお祈りいたします

石川丸の船出

厚木連合戸陵会 事務局長 伊藤修治(高十七回)

梅雨の合間をぬって、六月二十五日(日)・緑映える飯山・元湯旅館において、平成十八年度厚木連合戸陵会通常総会が開催されました。総会には、各戸陵会(八地区)より選出された常任幹事を中心とした代議員が五十名出席し①学校・同窓会本部の諸行事に積極的に参加し連携強化していく。②支部戸陵会・地区戸陵会との交流を推進する。③厚木独自の事業と広報委員会の設置等の事業計画が承認され石川範義会長(小鮎戸陵会)のもと実質的な新年度がスタートいたしました。また来賓には伊勢原戸陵会より大津会長、本部より神崎副会長(荻野戸陵会)、梅沢副会長(依知戸陵会)、学校からは



厚木連合戸陵会

堀校長と四名の方々の御出席をいただき特に、堀校長には、地元厚木に対する感謝と熱い期待を表明されました。母校百周年に合わせるが如く設立された厚木連合戸陵会も早や五日

南毛利戸陵会の活動

南毛利戸陵会

南毛利戸陵会は、二月十八日に会員六十名の参加を得て総会を開催し、新役員体制をスタートさせました。総会後には、温水在住の



南毛利戸陵会

年目、旧町村や、中学校区を配慮して立ち上げた八地区戸陵会(厚木・依知・睦合・荻野・玉川森の里・小鮎・南毛利・相川)の連合体として、母校厚木高校の地元としての役割が益々重要になるものと思われまます。一般的に母校とは同窓生にとって故郷に似て『ふるさと』は遠きにありて思ふもの。そして悲しくうたふもの(室生犀星)でありましようか。

証券アナリスト吉岡章氏(高五回卒)に「証券市場の動向と課題」と題する講演を頂き、経済情勢の知識を深めたところです。懇親会では南毛利ハーモニカ同好会「吹夢Z(スィムズ)」のミニコンサートのもあり、和やかな懇談が盛り上がりました。三月には幹事会を開催し、ゴルフコンペ開催(七月五日)の決定、視察旅行(県警本部)、母校部活応援、同窓生の参加拡大等を検討し、精力的に活動していくことを確認しました。四月の同窓林草刈りには会長以下三名が参加し、各地区戸陵会との連携も深めています。なお、新体制は、城所会長(高十一回)、石射副会長(高十四回)、井萱事務局長(高十九回)、高澤幹事長(高十五回)ほか役員十七名で活動しています。

荻野戸陵会を顧みて

— 荻野戸陵会 —

荻野戸陵会は本年の六月十一日に第五回目の総会を行い、平成十三年の夏から同会発足に向けての活動以来、満五年を経過したことになります。

設立の準備はかなりのエネルギーを要しましたが今は懐かしい思いがします。設立にご尽力頂いた神崎英男氏（設立当初の元会長）及び内田徳孝氏（現会長）の両名は特に中心的に求心力を発揮されました。初代会長の神崎英男氏は、かなり強いリーダーシップ・優しい笑顔・面白いユニークなジョー



荻野戸陵会

クが持ち味であり、その持ち味に我々スタッフが騙され大勢の力が集まり、荻野戸陵会が平成十四年三月十六日に設立総会を開き産声を上げました。その後、ゴルフコンペを年二回開催する等主な行事も定着してきました。現会長の内

やまとはくのにのまほろば

— 大和戸陵会 —

田徳孝氏は初代会長の方針を受け、多くの参加者を得る行事を模索中で、昨年は「劇団扉座」の公演を観劇する行事を行いました。荻野戸陵会は気軽に参加できる雰囲気です。各行事に一人でも多く参加して下さい。

間に合わせた。

毎年開催の総会には講演を盛りこみ、それぞれの方の深い専門分野に親しむことができた。本支部会員の中からの講師では、

高16回 土屋侯保大和市長
高20回 甘利明衆議院議員

の身近なお二人の最新の政治状況の解説があり、今後へのご決意を熱く感じさせられる貴重な研修内容であった。

事務局便り

事務局スタッフ十二名に

本年四月の人事異動で、英語科の小山隆先生（高31回）が厚木東高校に、社会科の山崎朗先生（高32回）が相模田名高校に、数学科の熊坂和也先生（同）が県高校教育課にご転出となりました。先生方には長年にわたり同窓会の各活動に大変ご尽力をいただきありがとうございます。

また、新たに綾瀬西高校より久貝直先生（高20回・英語）、厚木西高校より須藤恒治先生（高28回・数学）が着任いたしました。今年度は十二名の校内役員で頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

編集後記

同窓会報第四十号をお届け致します。今回の会報には、本年度着任された堀英雄校長先生、難波淳一教頭先生、転出された三名の先生方、本部の活動報告等を始め、ご多忙にもかかわらず多数の支部より原稿や写真をお寄せいただきました。おかげさまで紙面も例年より倍増し、大変充実した内容となりました。心よりお礼申し上げます。

今後とも、各支部会の活動が益々活発にならること、会員各位のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。

同窓会支部・会長名・連絡先一覧

- 伊勢原戸陵会 会長 大津 博康 (高10)
☎259-1131 伊勢原市上粕屋1766 ☎0463-95-2278
- 秦野支部会 会長 八木 伸一 (中40)
☎257-0035 秦野市本町1-3-1 ☎0463-81-1666
- 津久井支部会 支部長 佐藤 弘 (中35)
☎220-0111 城山町川尻1661 ☎042-783-1183
- 平塚支部会 会長 沖津 綏夫 (高2)
☎254-0012 平塚市大神2760 ☎0463-55-0682
- 横浜会 会長代行 長田 敬幸 (高7)
☎252-1126 綾瀬市綾西3-14-15 ☎0467-78-5762
- 座間戸陵会 会長 瀬戸 宏孝 (高4)
☎228-0027 座間市座間1-3105 ☎046-255-0062
- 相模原両青会 会長 篠崎源太郎 (中31)
☎229-1124 相模原市田名4986 ☎042-761-6931
- 愛川戸陵会 会長 佐々木力夫 (高10)
☎243-0307 愛川町半原653-1 ☎046-281-0149
- 川崎多摩麻生戸陵会 会長 壁 義彰 (中33)
☎214-0003 川崎市麻生区高石2-36-2 ☎044-955-7508
- 綾瀬戸陵会 会長代行 新倉 正治 (高15)
☎252-1114 綾瀬市上土棚5-5-21 ☎0467-78-1370
- 海老名戸陵会 会長 森田 完一 (高5)
☎243-0406 海老名市国分北1-40-6 ☎046-231-0866
- 三浦半島戸陵会 事務局長 伊藤 学 (高30)
☎239-0803 横須賀市桜が丘1-17-7 ☎0468-34-5331
- 御所見戸陵会 会長代行 長谷川和生 (高10)
☎252-0816 藤沢市遠藤651-4 ☎0466-48-2156
- 大和戸陵会 会長 座間 茂俊 (高2)
☎242-0007 大和市中央林間2-8-3 ☎046-274-3520
- 厚木連合戸陵会 会長 石川 範義 (高11)
☎243-0213 厚木市飯山4916 ☎046-242-0008
- 清川戸陵会 会長 山田 恵一 (中37)
☎243-0112 清川村煤ヶ谷2300 ☎046-288-1131



大和戸陵会